

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

【研究開発の背景】

○ 京都の課題

- ① 少子高齢化
- ② コロナ禍における訪日外国人の消滅（課題の変化）
⇒ 観光産業への大きな打撃（変化への対応）
- ③ 地域に根ざした観光人材の不足



○ このプロジェクトで育てたい人物像

ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人

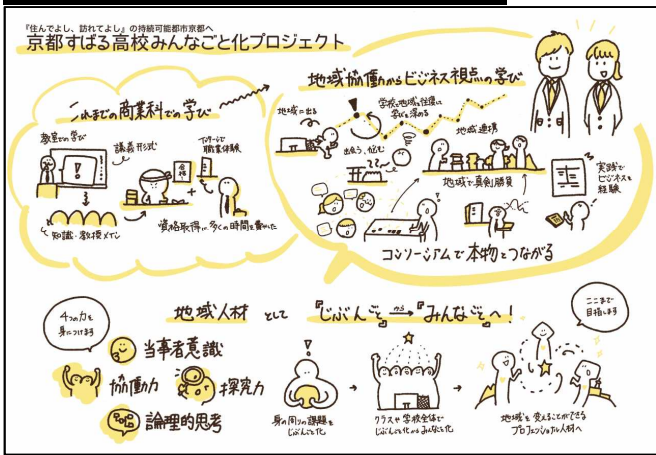
⇒ 発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人

⇒ 多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「みんなごと」としてとらえ、新しい成果を出せる人

○ 育成したい資質・能力

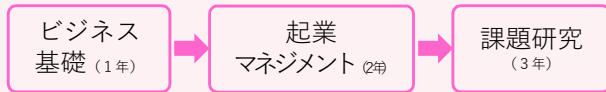
当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

学校全体のプロジェクトイメージ



各学科のプロジェクトイメージ

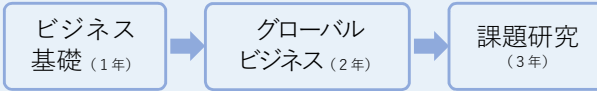
起業創造科



地域学・マネジメント論をベースに、起業家精神をもって「住んでよし」の京都を創る

コンソーシアム・地域協働学習実施支援員

企画科



観光学・グローバルビジネス論をベースに、企画力をもって「訪れてよし」の京都を創る

取組事例（R1～3年度）

起業創造科

- 商いリサーチ（商店街・中小企業へのフィールドワーク）
- 向島賑わいづくりプロジェクト（地域資源を活用したビジネスの提案）
- 企業内起業プロジェクト（経営資源を活用した新規事業部門の提案）
- 課題研究（ソーシャルアントレゼミほか全9ゼミ）



地域リサーチ



中小企業へのフィールドワーク

コンソーシアム・運営指導委員・カリキュラム開発等専門家・地域協働学習実施支援員による指導助言・連携・コーディネート等

企画科

- じぶんごと化プロジェクト（アフリカと向島地域をつなぐ企画）
- みんなごと化プロジェクト（ソーシャルビジネスの企画）
- 伏見稲荷地域の混雑緩和策の企画
- 課題研究（観光ビジネスゼミほか全9ゼミ）



伏見稲荷大社でのインタビュー



アフリカ人留学生との交流

成果



地域協働の学びの魅力について、生徒の話し合いをイラストにしたもの

○ 地域への関心度：85.6%

（自分が住んでいる地域について興味、関心がわいた）

○ 授業への積極性：85.1%

（地域とつながる授業に対して積極的に取り組んだ）

○ じぶんごと化：81.5%

（地域の諸課題に当事者意識を持った）

※令和3年3月実施（現3年生）アンケートより

課題・今後の取組

○ みんなごと化：66.7% →ゼミの活用

（周囲を巻き込み、チームで協働することが出来た）

※同アンケートより

○ 持続可能な体制（コンソーシアム・コーディネーター等）の構築と充実

○ 地域公共政策士（高校生版）認定資格の創設